

見えない技術が、社会の寿命を延ばす

4.3兆円/年

日本における腐食コスト※1

8,000万t-CO₂/年

腐食損失を再製造で補う場合の潜在的CO₂排出量(当社試算)※2

Without
Surface Engineering

With
Surface Engineering

2050年への分岐は、すでに始まっています。
持続可能な未来への進路変更を、
日本パーカライジンググループが支えます。



※1 公益社団法人腐食防食学会／一般社団法人日本防錆技術協会：
わが国における腐食コスト(2020)

※2 腐食により失われた材料を新たに製造して補うと仮定した場合の潜在的なCO₂排出量を、
一定の前提に基づき当社が試算したものです。
当社グループによる直接的なCO₂削減量を示すものではありません。



事業を通じた脱炭素化に向けた挑戦

詳細は特集ページへ(P63)



「変革への挑戦」新総合技術研究所

詳細は(P31)